

連載

# はままつ文化財の散歩道

## 第20話 庭園を愛でる



▲池泉庭園(長楽寺庭園)

**日** 本列島で初めて庭園が  
つくられたのは、今から  
およそ一五〇〇年前の飛鳥時  
代。仏教などとともに大陸の最  
新文化のひとつとして庭づく  
りが伝わりました。以降、日本  
列島では仏教や和歌、茶の湯な  
どの要素を取り込み、時代と文  
化精神性などを象徴する日本  
庭園が数多くつくられました。

日本庭園には、水を豊富に使  
用した池泉(ちせん)庭園と、水  
を一切使わずに石や砂利などで

山水風景を表現した枯山水(か  
れさんすい)庭園があります。石  
や土、水、植物などの自然素材を  
使用した日本庭園を良い状態  
で保ち続けるためには、絶え間  
のない手入れが必要です。浜松  
市内には、鎌倉時代から江戸時  
代にかけてつくられ、名勝に指  
定されている庭園が五件ありま  
す。池泉庭園では、北区引佐町井  
伊谷の龍潭寺庭園(国名勝)、北  
区三ヶ日町福長の大福寺庭園、  
北区三ヶ日町摩訶耶の摩訶耶寺



▲枯山水庭園(実相寺庭園)

庭園、北区細江町気賀の長楽寺  
庭園(いずれも県名勝)。枯山  
水庭園では北区引佐町金指の  
実相寺庭園(県名勝)です。

令和三年度には、浜松城の  
二の丸御殿跡の発掘調査に  
おいて、人工的につくられた  
山(築山：つきやま)や庭園に  
配置された大型の石(景石：け  
いせき)、水を使わずに三和土  
(たたき)で表現された池(枯  
池：かれいけ)、円礫(えんれき)  
を敷き詰めて表現した池の岸辺(洲浜：  
すはま)によって構成された  
枯山水庭園の跡が見つかりま  
した。この発掘調査によって、



▲発掘された浜松城二の丸御殿の枯山水庭園調査後は、埋め戻し、発見した状態のまま地中に保存しています

江戸時代の浜松城二の丸御殿  
に庭園があったことが初めて  
明らかになりました。この庭  
園は、城主とその家族などが  
日常生活を送る奥御殿につく  
られ、江戸時代の浜松城主と  
その家族など、限られた人々  
が観賞した庭園だったことが  
想像できます。このほか、天竜  
区二俣町二俣の鳥羽山城跡(国  
史跡)の本丸にも発掘された枯  
山水庭園が残っています。

日本庭園は季節の移ろいや日  
光の当たり方、経た時間によっ  
て異なる姿を見ることができま  
す。庭をつくり維持する職人や  
鑑賞した人々の心情に思いをめぐ  
らしながら、庭園を愛でてみ  
てはいかがでしょうか。

(文：浜松市文化財課)

北区の文化財



遺跡の発掘調査  
浜松城跡



市HP▶遺跡の発掘調査 浜松城跡

市HP▶北区の文化財